

指導資料

総合的な学習の時間 第15号

 鹿児島県総合教育センター
平成29年4月発行

対象
校種

幼稚園

小学校

中学校

高等学校

特別支援学校

地域の特色を生かした総合的な学習の時間の工夫 —SWOT分析を活用した探究活動を通して—

地域や学校の歴史や伝統行事などの特色を生かして、探究活動を行うための具体的な工夫をSWOT分析を基に示すとともに、地域行事の特色と関連付けた内外環境要因の分析に基づく単元構想の見直しについて具体例を紹介したい。

1 地域の特色ある活動を生かす意義

(1) 指導計画上の配慮事項から

学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）「指導計画の作成に当たっての配慮事項」については以下のように示されている。

学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、児童の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動などを行うこと。

「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」
p.26から引用 中学校も同様（下線は筆者）

これまでも鹿児島県では、地域の特色や素材を生かした教育活動が各学校で展開されてきた。このことを鑑み、各学校の目標実現のために定める学習課題は、児童生徒が地域と探究的に関わりを深める学習活動の具体的・分析的な考察を通

して設定する必要がある。

(2) 教育課程に地域の特色ある活動を生かす意義

各学校においては、地域の特色ある活動を分析し、教育課程全体を見通して、活動内容を実施時期及び内容の横断的な学習が充実するという視点で策定することが重要である。特に、総合的な学習の時間においては、他教科・領域と関連した探究活動を行うという特徴を生かし、単元計画に具体的に生かせるようにすることが大切である。

ここで留意すべきことは、地域の特色ある活動全てを取り入れることではなく、学校を取り巻く内外環境を、「強み」、「弱み」の観点で分析・考察し、解決策を見出し、それを具体的な探究活動に生かすことである。そこで、地域の特色ある活動を生かし、探究活動に具体的に取り入れるためにSWOT分析を活用したい。

2 SWOT分析を活用した課題解決の工夫

(1) SWOT分析とは

学校の内部環境の具体的な状況を「強み」(Strength)と「弱み」(Weakness), 学校を取り巻く外部環境の具体的な状況を機会(Opportunity)と脅威(Threat)に分類することにより, 多様な観点から特色ある学校づくりや課題の解決策を構築するための手法である(図1)。

	【内部環境】	【外部環境】
プラス面	強み (S) 学校内の環境 や資源の中で, 活用できるもの	機会 (O) 学校外の環境 や資源の中で, 学校に支援的に 働くもの
マイナス面	弱み (W) 学校内の環境 や資源の中で, 修正すべきもの	脅威 (T) 学校外の環境 や資源の中で, 学校に阻害的に 働くもの

図1 SWOT分析の観点

(2) SWOT分析する上での留意点

分析結果を総合的な学習の時間における探究活動の具体的な活動計画立案及び活動内容設定の検討に生かすために, 次の点に留意したい。

ア 分析の観点が同じであっても, 環境要因を解釈する中で, プラス・マイナスの両面をもつこともあるので多面的に見ること。

イ 分析する時期は, 次年度の教育課程を策定する2学期末とすること。

ウ 新年度に入ってから, 学習活動を具体的に検討する前と活動後の修正を加える時期が適切であること。

(3) 探究活動設定に向けたSWOT分析の活用事例

総合的な学習の時間における探究的な学習とは, 「課題の設定」, 「情報の収集」, 「整理・分析」, 「まとめ・表現」などの問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動(探究学習の過程)の連続である。これらの探究的な学習を成立させるためには, 地域や学校の歴史や伝統行事等に関心をもたせ, 児童生徒が自らその課題を解決していこうとする探究活動の設定が重要である。

SWOT分析に当たっては, まず, 学校内外の環境要因を「強み」や「弱み」として抽出し, それらが働く場合や場面についての分析を行う。次に, この分析を基にしてプラス面を「支援的要因」, マイナス面を「阻害的要因」として捉える。それらを各教科等の学習内容とも関連付けた見直しの視点として, 探究活動の効果的な運営ができるよう単元構想の見直しに役立てる。

なお, 学校の内外環境の例を下に示す。

○ 内部環境の例

児童生徒, 教職員, 生徒会, 校内施設, 予算, 沿革, 教育課程 等

○ 外部環境の例

地域住民, 外部施設, 少年団, 企業, 自然, 史跡, 産業, 伝統行事 等

以下, SWOT分析を活用した単元構想の見直しの実践事例を示す。

【SWOT分析を用いた実践事例】（地域の伝統行事を取り入れた小学校第6学年の実践例）

① 内外環境要因の分析

<p>内部環境【強み】S</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統行事の継承者として、地域の未来の担い手としての自己有用感を高められる。 ・ 地域の方々の見守り活動などについての理解を深めることができる。 	<p>【プラス面 支援的要因】 外部環境【機会】O</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸能の保存会が校区内にある。 ・ 児童への地域の継承者としての期待が大きい。 ・ 自分の住む地域のよさに関心をもつ機会が多い。
<p>内部環境【弱み】W</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域内の交流や活動はさかんであるが、地域の伝統行事等を知る機会は少ない。 ・ 活動に係る時間確保や予算面の課題がある。 	<p>【マイナス面 阻害的要因】 外部環境【脅威】T</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸能の継承者として活動することを教育活動の一環として位置付ける工夫が必要である。 ・ 地域の指導者の継続的な確保が課題である。
<p>【SWOT分析を基にした見直しの視点】</p>	
<p>【支援的要因や強みを生かす視点】</p> <p>ア 伝統芸能の継承者の育成を目標としてオリエンテーションを行い、学習の内容や方法の設定をする。</p> <p>イ 保存会との打合せを十分に行い、児童の持ち味を生かした活躍の場を提供する。</p>	<p>【弱みを克服し阻害的要因を回避する視点】</p> <p>ウ 日頃から保存会の代表者及び学校応援団等との連携を図り、児童の実態を含めた活動時間等の課題について情報交換を充実させる。</p> <p>エ 市報や新聞、学校ブログなどを通して、広く情報発信を行い、学習内容の理解を図る。</p>

② 単元構想の見直しの視点

<p>【単元名】 「守ろう〇〇の宝」</p> <p>【目指す児童の姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に伝わる伝統芸能を学ぶことで、地域に愛着をもち、地域のことをもっと学びたいという関心・意欲をもつ児童 ・ 地域の未来の担い手として、地域の伝統芸能の継承者としての自覚をもった児童 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>地域の伝統芸能（踊り等）のいわれや保存会の方々の活動等に触れ、児童の「知りたい」、「踊れるようになりたい」という学習意欲を高め、ゲストティーチャーの指導や講話から、我がふるさとについて興味・関心をもちながら、他の学年に情報発信する児童</p> </div> <p>【設定したい探究活動の学習場面】（主な探究学習の過程 【 】は、SWOT分析を基にした見直しの視点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の風土や歴史、文化について講話などを通して課題を設定する場面（課題の設定）【ア】 ○ 踊りを習得するために、保存会の方々の実技指導を必要とする場面（情報の収集）【イ、ウ】 ○ 教えてもらった知識を基に壁新聞を作り、伝統芸能のよさを見直す場面（整理・分析）【イ、エ】 ○ 他校との交流会、学習発表会の場、地域行事での情報発信する場面（まとめ・表現）【エ】 	
---	--

③ 見直しの視点を基にした学習活動の改善例

【支援的要因や強みを生かす視点】から（【ア】 【イ】）

○目標に「地域の継承者としての自覚を持つ」「伝統芸能の歴史を知る」活動を位置付ける。

【弱みを克服し阻害的要因を回避する視点】から（【ウ】 【エ】）

○保存会との連携において学習の推進体制を整え、教育活動の情報発信の機会を位置付ける。

<守ろう〇〇の宝> 単元構想例（年間指導計画）

月	時数	主な活動例（【 】は、見直しの視点）
4	3	<守ろう〇〇の宝> □□踊りの歴史（13時間）＋◇◇に関する学習（7時間） ・ 地域に伝わる伝統芸能の特徴や人々の工夫等についてのオリエンテーション【ア】。 ・ 学習課題を設定し、追究の計画を立てる（◎◎自治会との連携）【ア,イ】。 ・ 事前の時間調整を行い、保存会の方を招いて伝統芸能についての話を聞く【イ,ウ】。 ・ □□踊りを教わる（動きや歌などの意味や歴史的な背景も併せて教わる）【ウ】。 ・ □□踊りについて調べ、まとめたことを発表する（他校との交流でも発表する）【エ】。 ・ 学校応援団等、地域のお世話になった方々へお礼の手紙を書く【ウ,エ】。
5	6	
6	6	
7	5	
9	4	<守ろう〇〇の宝> □□踊りを発表（19時間）＋◇◇に関する学習（6時間） ・ 伝統芸能に親しむために具体的な実演・参加等についてのオリエンテーション【ア】。 ・ 学習課題を設定し、追究の計画を立てる（◎◎自治会との連携）【ア,イ】。 ・ □□踊りの歴史や踊りを教わる（1学期の続きで細かい動きまで確認する）【イ,ウ】。 ・ □□踊りについて調べたことや踊りの発表の準備をする（発表会の準備まで）【エ】。 ・ 学習発表会で発表する（保存会の方々の指導を受け、他校との交流で発表する）【ウ,エ】。 ・ 探究活動を振り返る（地域行事での伝統芸能の発表の場の可能性を探る）【エ】。
10	6	
11	9	
12	6	
1	9	<守ろう〇〇の宝> 地域に伝わる□□踊りの継承（22時間）＋◇◇に関する学習（3時間） ・ 伝統芸能をどのように継承していくかを検討するためのオリエンテーション【ア】。 ・ 学習課題を設定し、追究の計画を立てる（◎◎自治会との連携）【ア,イ】。 ・ 5年生に地域伝統芸能（□□踊り）を継承する（新聞、実演、VTR等）【イ,ウ】。 ・ 地域に伝わる伝統芸能の継承者としての自分なりの考えをもつ【エ】。
2	10	
3	6	

（伊佐市立山野小学校の実践事例を基に作成）

これからの児童生徒が生きていく社会においては、多様な解のある課題を解決していく必要がある。今後も地域の特色ある活動の「強み」を生かし、「弱み」を克服して課題解決する探究活動に生かしていきたい。加えてこれからは、教育課程全体に関わるカリキュラム・マネジメントの視点での策定も重要と

なる。学校や地域の特色ある活動が児童生徒の生きる力の育成につながるよう期待したい。

－引用・参考文献－

- 文部科学省『小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』平成20年 東洋館出版社
- 総合教育センター指導資料『教育経営32号』平成24年
- 伊佐市立山野小学校 総合的な学習の時間計画平成28年短期研修講座事例発表資料

（教科教育研修課）